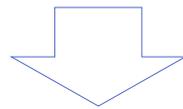


水辺の生きものの調査の進め方(事前準備)

事前準備で行う主なこと

- 実施メニューの検討
 - ✓ 実施場所の選定
 - 実施日の選定
 - ✓ 実施体制の構築
 - 参加者の設定
- 並行して検討



- ✓ 道具の準備
- 参加者の募集
- ✓ 実施場所の下見・整備

✓ 本講義で説明予定の項目

実施場所の選定

水辺の生きもの調査に適した場所

- ✓ [重要]安全な場所
- ✓ 生きものが多い場所
- ✓ 広いスペースのある場所(河原など)
- ✓ 他の利用者が多くない場所

「安全な場所」とは？

- ✓ [重要]水深が浅く、流れが緩やかな場所
- ✓ [重要]水が汚れていない場所
- ✓ [重要]水辺へアクセスしやすい場所
- ✓ [重要]増水した時の逃げ道がある場所
- ✓ 日陰がある場所
- ✓ 危険な生物が注意喚起されていない場所(マムシ注意の看板など)
- ✓ 近くに、ダムや堰などが無い場所
- ✓ その他、危険がない場所
(ガラスや空き缶などのゴミ、工事現場、がけ崩れ、車の往来 など)



「生きものが多い場所」とは？

- ✓ 水がきれいな場所
- ✓ 川底や水際がコンクリートでない場所
- ✓ 川の流が多様な場所（水深、流速、流れの向き など）
- ✓ 川の周辺に、草原や林がある場所

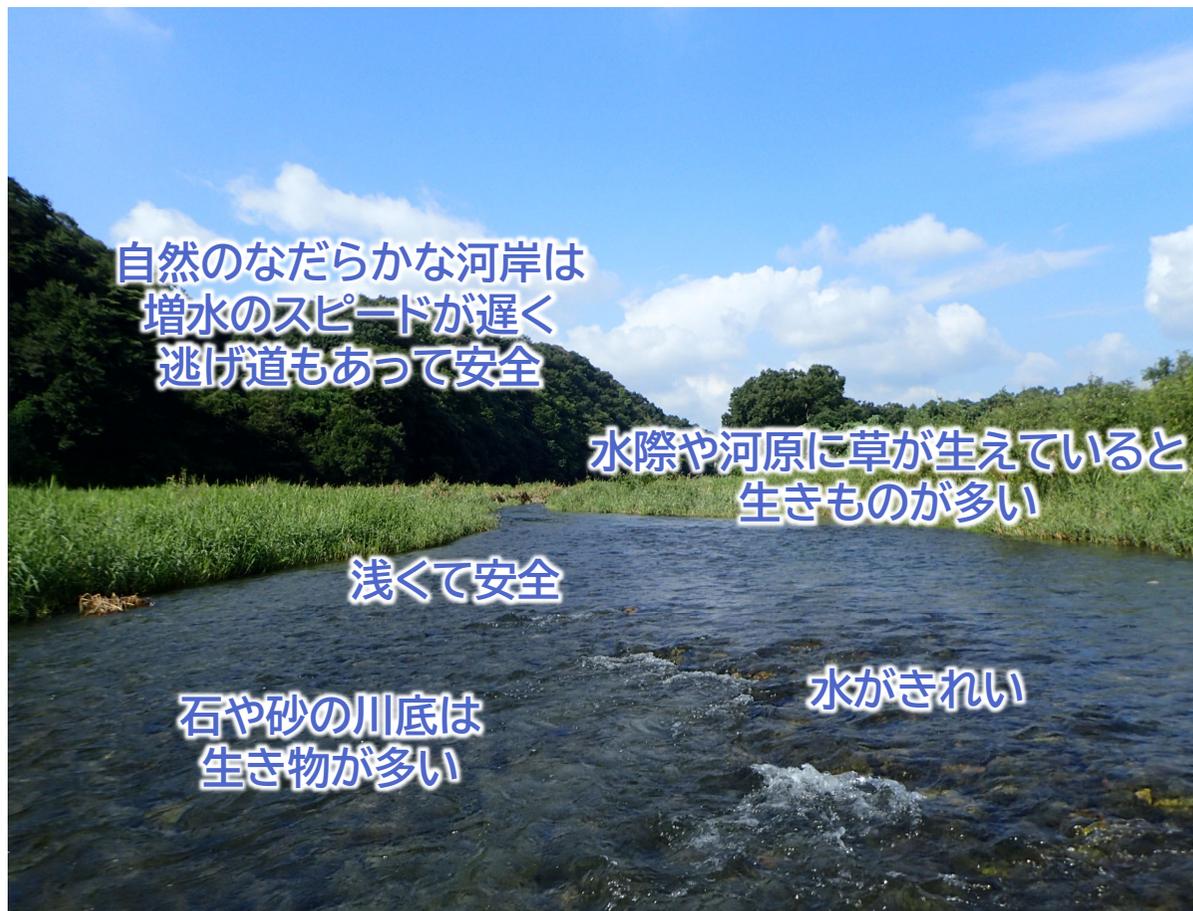
「生きものが多い場所」とは？

- ✓ 川の中や水際に、草が生えていたり、大きな石がある場所
- ✓ サギなどの水鳥がたくさんいる場所



事前準備（実施場所の選定）

比較的安全で生きものが多い



事前準備（実施場所の選定）

危険で生きものが少ない



近くに良い場所があるか、
わからなかったら…

聞いてみましょう！

地域の自然史博物館や水族館

自治体の環境研究所

自治体の土木事務所（河川管理者）

地域の活動団体（NPO等）

漁業協同組合

など

場所の候補が決まったら必ず下見を

生き物はたくさんいそうか

危険な場所、モノ、生き物はないか、看板やロープは不要か

どこから川に入るか

どこで採集や観察をするか

避難ルート・場所はどこにあるか

草刈りや看板・ロープの設置には、管理者の許可が必要な場合があるので事前に確認しましょう。

実施体制の構築

運営側スタッフの手配

代表者・・・中心となる人 判断を行う人

受付(公募の場合)・・・個人情報管理

連絡担当・・・携帯電話等連絡手段

司会・進行

写真撮影・・・集合写真、活動スナップなど

資材等の運搬・設営・片付け・・・複数人(資材の量や距離に応じて設定)

参加者誘導・安全管理・・・複数人(参加者人数に応じて設定)

生きもの調査の担当・・・必要に応じ外部協力を要請

外部協力の例

その地域で活動されている方

その川のことをよく知っている
昔のことを知っている
生きもの調査等に慣れている
地域との繋がりを持っている

専門家

自然環境の専門知識がある人
(大学の先生、自然史系博物館の
学芸員など)

道具の準備

生きもの採集・観察に必要な主な道具

配布・貸出

タモ網

生き物を入れる容器

(バケツ・プラケースなど)

ライフジャケット

観察ノート・筆記具



生きもの採集・観察に必要な主な道具



基地に配備

救急セット

デジカメ・スマホ

白バット

エアーポンプ

虫メガネ・ルーペ

図鑑

テント・タープ・テーブル

ブルーシート

実施場所の下見・整備

実施日直前の下見でチェックするポイント

- 環境(水深や流れ)が大きく変わっていないか
- 設定した水辺へのアクセスルートは確保されているか
- 避難ルート・場所(増水、豪雨、雷など)は確保されているか
- 新たな危険箇所、モノ、生き物はないか



実施場所の整備の例

- ゴミや危険物の除去
- アクセス路の整備（草刈り など）
- 危険な場所の明示・ロープ張り



事前準備のスケジュール(例)

